

カンキツそうか病情報第1号（ウンシュウミカン）

令和5年3月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**近年、そうか病の発生量が多くなっています。
伝染源の除去や適期防除を実施しましょう。**

1 そうか病の発生状況

3月上旬に行った巡回調査（22ほ場）の結果、ウンシュウミカンにおけるそうか病の発病葉率は4.36%（平年1.87%、前年6.32%）で、過去10年で2番目に高く、発生ほ場率は68.2%（平年31.3%、前年63.6%）で、過去10年で最も高い状況でした（図1）。本病は、旧葉や枝の病斑内で越冬することが知られており、今春の本病原菌の越冬量はやや多いと予想されます。

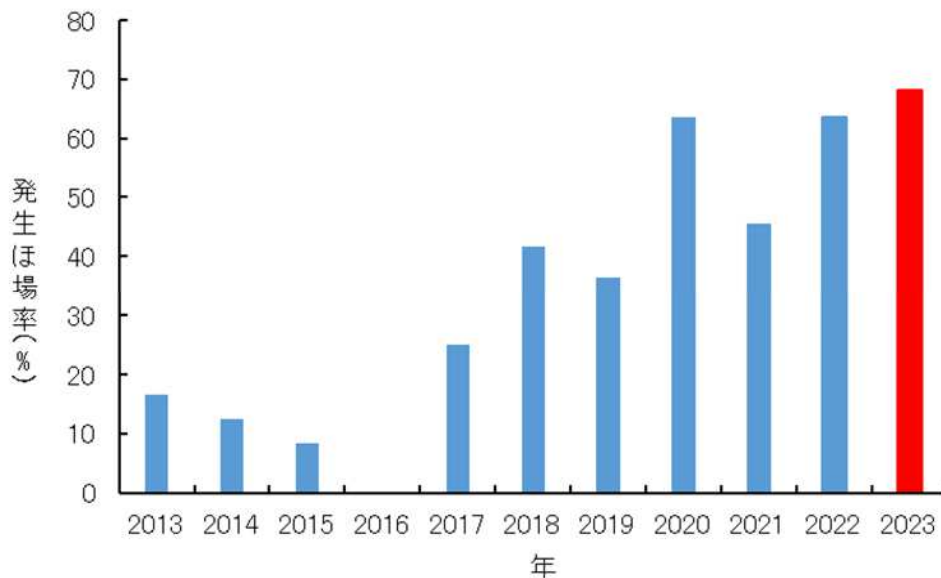


図1 カンキツそうか病における発生ほ場率の推移（3月上旬調査）

2 そうか病の防除対策

- (1) 葉や枝の病斑で越冬した病原菌は、降雨等により水分を得ると胞子を形成して、それが発芽直後の新葉に感染していきます。特に、4～5月に雨が多いと病原菌の活動が活発になり、多発する傾向にあります。**病斑が多く形成された葉（図2）が第一次伝染源となるので、樹勢等生育に影響が出ない範囲で見つけ次第枝ごと除去しましょう。**栄養生長が盛んな若い樹は感染しやすいので、重点的に観察しましょう。
- (2) 表を参考に防除を実施しましょう。若い葉（新葉）は本病に感染しやすいので、発芽期における防除を徹底しましょう。新葉以外に幼果も感染しやすいので、落弁期にも防除を実施しましょう。

(3) 窒素肥料が多いと栄養生長が盛んになり、本病の発生が多くなるので、適正な肥培管理に努めましょう。



図2 いぼ型病斑が形成された葉

表 カンキツそうか病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード
デランフロアブル(※)	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン	M9
ストロビードライフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11
ナリアWDG	収穫14日前まで	3回以内	ピラクロストロビン ボスカリド	11 7
ナティーボフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11

※ 開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を 30 日以上あける。

令和5年3月14日時点の農薬登録情報です。

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。FRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。